

第7期富士通グループ環境行動計画 (2013年度～2015年度)

富士通グループは、「富士通グループ環境方針」を実践するための具体的目標として、中期行動計画を策定しています。2013年度から2015年度にかけては、新たに「第7期富士通グループ環境行動計画」を策定し、推進しています。

世界は人口増加による、資源、エネルギー、食糧の供給問題、気候変動、自然災害の増加、生物多様性の損失、など多くの課題に直面しています。これらの社会・環境課題は複雑に絡み合っており、簡単には解決できません。企業はさらに積極的にこれらの課題解決に取り組むことを期待されています。

ICTを賢く活用することは、資源やエネルギーをより効率的に使うことを可能にし、温室効果ガスの削減にも貢献します。また、社会に対して自然災害への備えや対応にその力を活かすことができます。富士通は、ICTこそが複雑な社会・環境課題の解決に重要な役割を果たせると考えています。さらに、ICTはあらゆる場面で暮らしを支えるだけでなく、人々を繋ぎ、知恵を集め、安全で持続可能なもっと豊かな未来を実現させる力があります。

富士通は、ICTの利活用を社会全体に広げ、革新的なテクノロジーを創出するなど、事業活動を通じて、地球環境をはじめとして広く社会課題の解決に貢献していきます。また、ICTのリーディング企業として、お客様やパートナー、お取引先とのグローバルなバリューチェーンにおいて、社会と協働し、持続可能で豊かな社会の実現を目指します。

	テーマ	目標項目 (2015年度末までの目標)
社会への貢献	ICTの提供による温室効果ガス(GHG)排出量の削減	お客様や社会の温室効果ガス排出量の削減に累計2,600万トン(注1)以上貢献する。
	サステナビリティソリューションの提供	社会の持続可能性に貢献するソリューションの提供を拡大する。
	環境配慮製品の開発と提供(エネルギー効率)	新製品の50%以上をエネルギー効率トップレベル(注2)にする。
	環境配慮製品の開発と提供(資源効率)	新製品の資源効率を2011年度比20%以上向上する。
	先端グリーンR&Dの推進	ソリューションとプロダクトの環境負荷低減に貢献できる革新的技術を開発する。
	社会との協働	生物多様性などの社会・環境課題の解決に取り組む活動に対し、資金、技術、人材などを支援する。
自らの事業活動	良き企業市民としての活動	社員が社会とともに取り組む社会貢献活動を支援する。
	温室効果ガス(GHG)排出量の削減	事業所における温室効果ガス排出量を1990年度比20%以上削減する。
	エネルギー効率の改善	事業所におけるエネルギー消費原単位を年平均1%以上改善する。
	環境配慮データセンターの推進	主要なデータセンターの環境パフォーマンスを向上する。
	物流・輸送時のCO ₂ 排出量の削減	輸送における売上高当たりのCO ₂ 排出量(注3)を2011年度比4%以上削減する。(注4)
	お取引先とのCO ₂ 排出量削減の推進	すべての領域のお取引先にCO ₂ 排出量削減の取り組みを拡大する。
継続管理(注5)	再生可能エネルギーの利用量の拡大	再生可能エネルギーの発電容量および外部からの購入を拡大する。
	水資源の有効利用	水の再利用や節水など、水資源の有効利用を継続する。
	化学物質排出量の抑制	化学物質の排出量を2009～2011年度の平均以下に抑制する。(PRTR: 21t、VOC: 258t)
	廃棄物排出量の抑制	廃棄物の発生量を2007～2011年度の平均以下に抑制する。(廃棄物発生量: 31,134t) 国内工場におけるゼロエミッション活動を継続する。
	製品リサイクルの推進	富士通リサイクルセンターにおける事業系ICT製品の資源再利用率90%以上を継続する。

(注1) 累計2,600万トン: 環境貢献ソリューションとして認定した約300の事例から、売上高当たりのCO₂e削減量原単位を求め、その原単位とソリューションのカテゴリ別年間売上高より、年間削減量を算出。
 (注2) エネルギー効率トップレベル: エネルギー効率においてトップランナー製品(世界初、業界初、世界最高、業界最高など)をはじめとした、市場の上位25%以上に相当するような基準を満たす製品。
 (注3) CO₂排出量: エネルギー使用量をCO₂排出量に換算。(注4) 目標達成により、2014年度より「輸送における売上高当たりのCO₂排出量を2013年度比年平均1%以上削減する」に目標変更。
 (注5) 継続管理目標: すでに高いレベルに達しており、継続して取り組んでいく目標。